

血栓性血小板減少性紫斑病と診断された皆様へ

倉敷中央病院血液内科では、以下の臨床研究を実施しておりますのでお知らせいたします。下記の概要についてご確認いただき、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理の方にご了承いただけない場合には、試料・情報を用いませので、以下の「問い合わせ先」までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

下記の研究では、奈良県立医科大学医の倫理審査委員会(以下、「倫理審査委員会」と略します)で審査され、研究機関の長の許可を得て行います。

①研究課題名	血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)に生じる心筋虚血と好中球細胞外トラップ(NETs)の評価			
②研究期間	実施許可日から2028年3月31日			
③対象患者	対象期間中に担当医から奈良県立医科大学輸血部へ検査を依頼し、TTPと診断された方。			
④対象期間	2005年4月1日から2023年9月30日			
⑤研究機関の名称	奈良県立医科大学			
⑥研究責任者	氏名	松本 雅則	所属	奈良県立医科大学輸血部
⑦使用する試料・情報等	<p>対象となる患者さんの以下の情報を提供します</p> <p>① 生年月、性別、発症日、既往歴。</p> <p>② 抗血栓療法の有無、胸部所見の有無、心電図所見、心臓超音波所見、トロポニン測定値。</p> <p>③ 心筋ストレスマーカー、転帰。</p> <p>また、提出した血液検体を用いて、以下の項目を測定します。</p> <p>①トロポニン T、トロポニン I、シトルリン化ヒストン H3、DNA/histone complex。</p>			
⑧研究の概要	<p>血栓性血小板減少性紫斑病は全身に血栓をもたらす疾患であるが、奈良県立医科大学輸血部の過去の研究の結果、心筋虚血が致命的帰結の主因である可能性が示された。また近年好中球細胞外トラップという機序が発見された。これは好中球が細菌などを貪食によって殺菌するのではなく核酸を投網のように投射してとらえる全く新しい免疫学機序である。しかしこの機序の免疫反応は慢性化することで血栓形成の素地になることが判明している。今回奈良県立医科大学輸血に提出された検体を用いて心筋虚血と好中球</p>			

	細胞外トラップの関連性を研究する。また初診時の臨床所見について担当医にアンケートを送付し症状との関連を評価する。	
⑨倫理審査	倫理審査委員会承認日	2023年10月31日
⑩研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報の保護等に支障がない範囲で入手又は閲覧できます。ご希望される場合は、「⑬問い合わせ先・相談窓口」にご連絡ください。	
⑪結果の公表	学会や論文等で公表します。個人が特定されることはありません。	
⑫個人情報の取扱い	臨床所見やイニシャルなど個人情報を研究用IDに置きかえて使用するため、患者さんの個人情報が外部へ漏れることはありません。研究用IDとの対応表は厳重に倉敷中央病院研究責任者において管理されます。 研究の成果は、学会や学術誌などで公表されますが、この場合も、個人が特定される情報が公開されることはありません。	
⑬問い合わせ先・相談窓口	倉敷中央病院 血液内科 上田恭典 電話 086-422-0210(代表)	